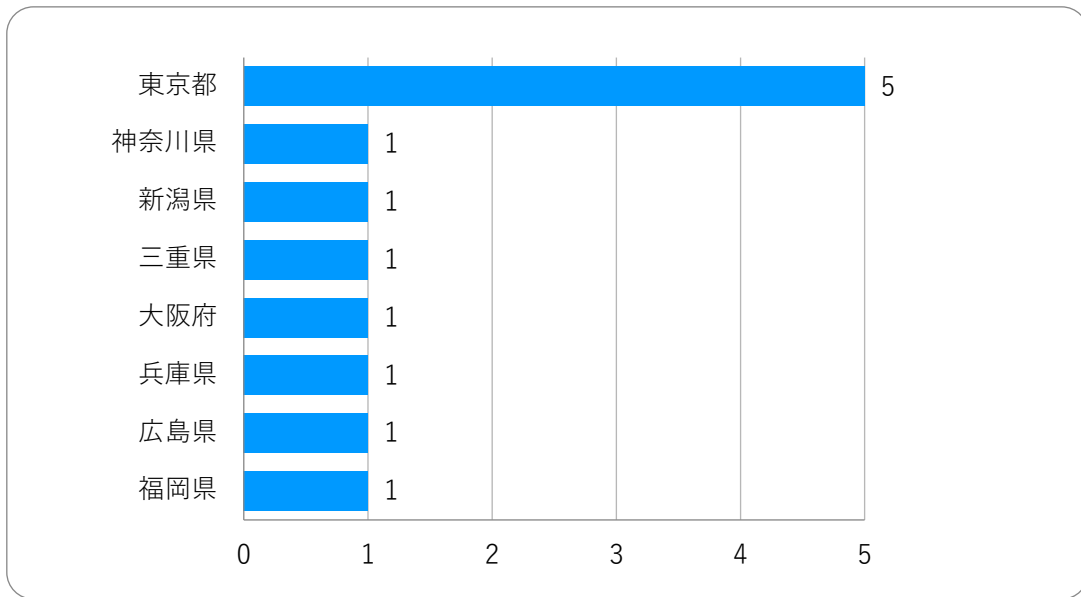


厚生労働大臣指定法人・いのち支える自殺対策推進センター主催
第3回「オンライン形式のわかち合いの会」運営スタッフ研修（1/29）アンケート結果の概要

※参加者19名中、アンケートに回答したのは12名。回答率63.2%。

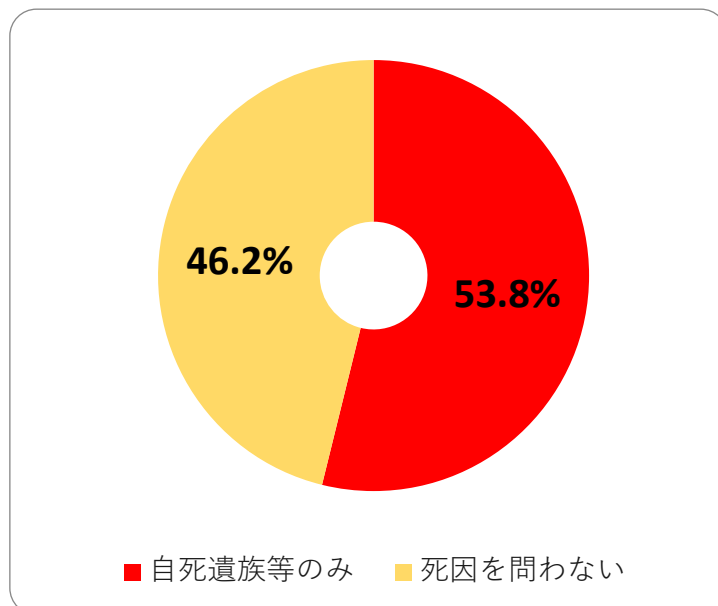
※グラフ下の「凡例」は、回答した人の割合が高い順に左から並べており、アンケートの選択肢の並び順とは異なります。

「主な活動拠点（都道府県）を教えてください。（複数回答可）」



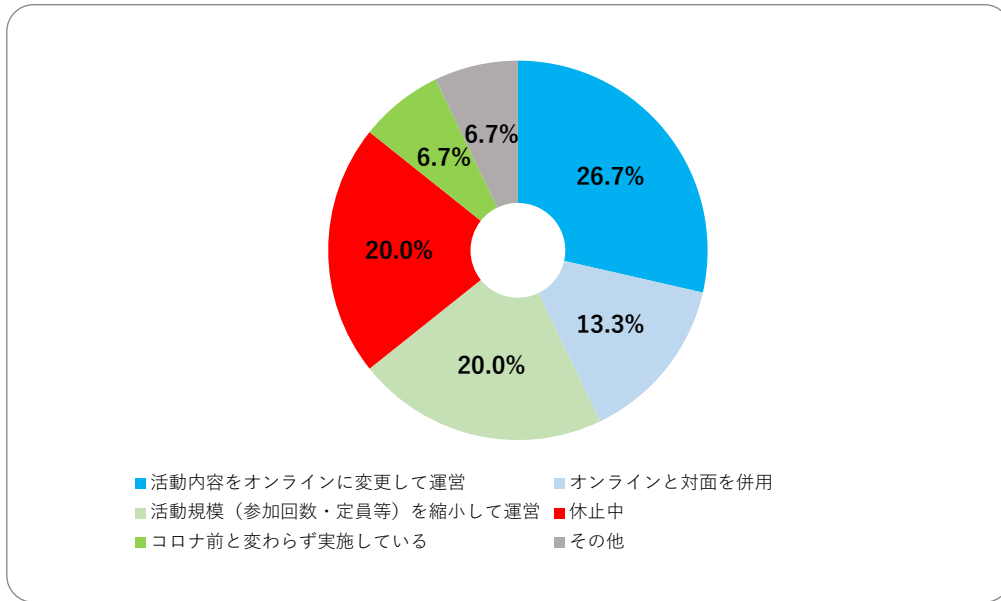
「『わかち合いの会』の対象を教えてください。（複数回答可）」

自死遺族等を対象とした「わかち合いの会」を運営している団体が53.8%、自死遺族を含むさまざまな遺族を対象とした「わかち合いの会」を運営している団体は46.2%。



「現在の「わかち合いの会」の活動状況を教えてください。（複数回答可）」

活動内容をオンラインに変更して運営が 26.7%、オンラインと対面を併用して運営が 13.3%と、第 2 回研修開催時のアンケートと比較すると、オンラインを導入している団体の割合が少しずつ増えている（参考：第 1 回 21.7%⇒第 2 回 34.6%⇒第 3 回 40.0%）。以前として、休止中の団体は 20.0%である。



「本研修に参加しようと思った理由を教えてください。（自由記述、内訳）」

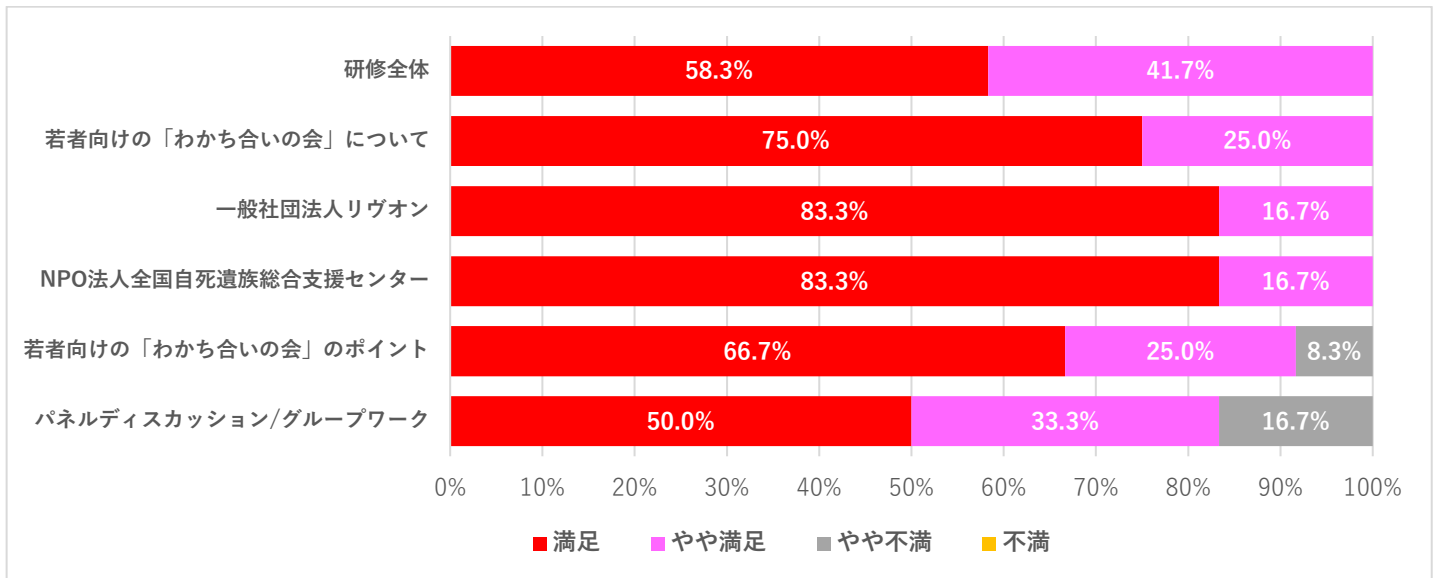
分野	件数
他団体の実践例や工夫していることが聞きたい	6
若者向けのわかち合いの会について学びたい	3
「オンライン形式のわかち合いの会」の開催を検討している	3
問題点や疑問を解消するヒントを得たい	1
「オンライン形式のわかち合いの会」について学びたい	1
他団体と繋がりが作りたい	1
その他	1

（以下抜粋）

- 将来的にオンラインを考慮し他の会の運営全般から学びたい。
- 若者の分かち合いの会をいずれできればと思い学びたいと思ったからです。
- SNS などオンラインを日常的に利用している若者のことを考えた場合、オンラインを利用した集いについて検討する必要があると考えたため。
- オンラインにて若者向けのトークの場を提供しています。それについての参考になるものを学ぶため。
- コロナの状況から対面で「つどい」を開催することが難しい中、オンラインでの「お話会」などの開催をしてみているものの、より分かち合いの場として場を整えていくことなど学びたいと思ったから。
- 10 年を超えて自死遺族分かち合いの会を実施しており、より自死遺族の方がより参加していただきやすい開催方法を検討していた。また、コロナ禍での開催が困難となりオンライン開催の検討の必要性を感じていたため。
- ほかの団体さんとの繋がりが現状の運営方法や参加者さんとの関わり合いかなど学べればとおもいました。

「研修の満足度についてご回答ください。」

研修全体の満足度は、満足が 58.3%、やや満足が 41.7%。



「上記を選択した理由を教えてください。(自由記述)」

(満足・やや満足のコメント一部抜粋)

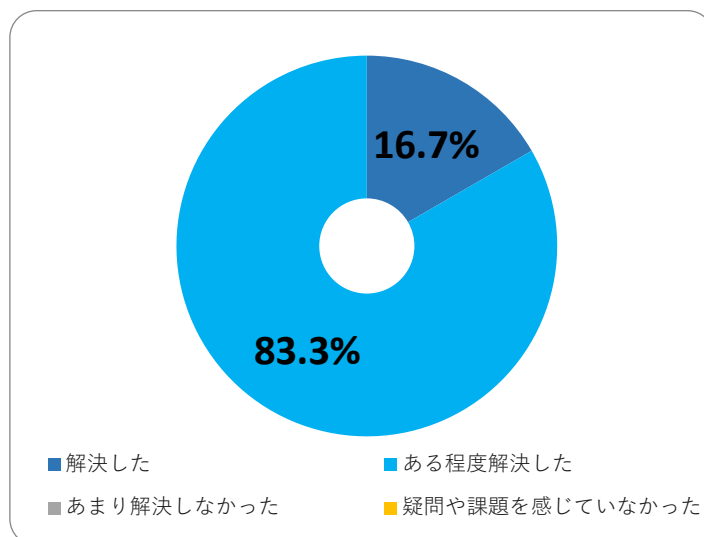
- 若者向けも、大人向けと共通する部分が多いことがよくわかった。その反面、参加者がなかなか集まらない、情報が届いていないなど課題に対するアプローチはやはり大人とは違う対応が必要なのではないかと思った。
- グリーフケアにおいて若者がどういことを求めているのかが今一つわからなかったが、現状を知ることができてよかった。
- 実際の経験者が多く、参考になった。
- 知りたい内容が分かりやすく、かつ深みもある内容で教えて頂き、とても良かった。資料なども参加者が受け止めやすいような整理された内容だった。
- 事前に質問事項を聞いてくれたので、その内容がスタート時からカバーされていて、全体の時間も効果的に使われていると感じた。
- 取組状況の概要をわかりやすく伝えていただいた。会の運営方法のさまざまなを現在の形に決めた背景や理由、講師の方やスタッフの思い等を詳しくお聞きできると、より理解を深める事ができたように感じる。
- わかりやすい説明だったが、インスタの紹介内容やレスポンスなどのお話を聞きたかった。
- 参加するまでの工夫が印象的で、わかち合いの会開催への様々な配慮が伝わってきた。
- パネルディスカッションには満足しているが、時間がもう少し長めであったら、よりよかったと思う。

(やや不満・不満のコメント一部抜粋)

- もう少しディスカッションの時間を取ってほしい。
- 色々考えるきっかけになるが時間枠が短いため、どの問題も表面的に終わってしまう傾向。
- キーワードに若者、若者のケアという言葉が使われることが少なかった。また、意見交換の内容が、若者向けの「オンライン形式の分かち合いの会」のポイントを軸とせず、散らばってしまった印象。
- グループワークで講師お2人がファシリテーターとして参加されていたルームに比べて、若者を対象とした集いを行う場合の具体的な注意点やヒントといった話にはならなかったため、その点が残念だった。

「本研修に参加して、参加前に感じていた問題や疑問等は解決しましたか。」

「ある程度解決した」が83.3%、「解決した」が16.7%。



「本研修で得た内容を踏まえて、今後の『オンライン形式のわかち合いの会』において生かせそうなことがあれば、教えてください。(自由記述)」(以下一部抜粋)

- 「ミラーリング」で、気持ちだけではなく身体的に相手との共有感覚が得られるということ。
- 「ミラーリング」の体ほぐし／広報の仕方／行政との連携／スタッフの体制の留意点。
- 個人情報の保護のための工夫の実際や若い世代に受け止めてもらいやすい視点上の工夫など。
- 若者の会に関しては広報の方法を変える必要があること。
- 匿名、顔出し否かの個人意見がはっきりしていなかったので、今回のことを参考にしたい。
- オンラインの使い方に慣れたスタッフを複数用意することが必須とわかったこと。
- 参加者に顔出しを原則求める、実名を表示しないなど、安全を担保するためのルール設定の必要性。
- 参加の案内に文字だけではなくイラストなどを入れることで、親しみやすさや安心感が増すということ。
- 個人情報の取り扱いについての質問への回答の準備。
- 沈黙の意味を改めて考えさせられた。
- 周知、広報の方法。
- 雰囲気づくり。

「研修で質問できなかったことや確認したいことがありましたら、ご記入ください。(自由記述)」(以下抜粋)

- 希死念慮を強く表現する参加者や、自死遺族を装って参加しようとする人への対応。

「その他、今回の研修に関して、ご意見、ご感想など自由にご記入ください。(自由記述)」(以下抜粋)

- 若者世代は、特に若年層で身内が対象者の場合、自死の事実を知らない遺族もいるということ、その場合のグリーフケアとして、若者向けの分かち合いは、自死限定とはしていないということ、そのこと自体は会として有効だと思った。だが、その反面、やはり自死を知ってしまった若者限定の会も必要なのかと思った。しゃべりたくない人もしゃべりたい人も、共有の場がどこかにあるという安心感は大きいと感じた。
- 講師のお話がとても参考になったので、講義の時間を長くして頂きたかった。

以上